

レポート 熊谷組(総合建設業)  
積極利用企業に見る取引先のでんさい登録促進の取組み

周到な計画でシステムを開発し  
説明会で取引先の理解を得る

現金に代わる支払手段として古くから利用されてきた手形だが、事務作業や管理コストの軽減、そしてファームバンキング、インターネットバンキングといった新たな支払手段の登場により近年流通量は減少傾向にある。

とはいえものの、割引や裏書譲渡など手形の持つ換金性、流動性の高さは、中小企業にとって柔軟な資金繰りを可能にする手立てとしても定着しており、いまだ一定量の利用が行われている。主要な決済手段として利用している業種

も少なくない。建設業もそんな業種の一つといえる。

内外の超高層ビル建設やダム、トンネルなど大型土木工事で高い実績を持つ総合建設業の熊谷組では、他に先駆けて、でんさいの導入に乗り出し、取引先への登録促進を積極的に展開。今年11月には取引先への支払手形の振出しを原則廃止した。

でんさいをはじめ電子債権の普及により、手形減少の流れは一層加速することが予想されるが、熊谷組はどんな狙いから一早くでん

さいの導入に踏み切ったのか。その考えとともに取引先に対するでんさいへの登録促進の取組みをレポートする。

「でんさいを導入することのメリットは多岐にわたりますが、大別するとコストの削減と事務・管理負担の軽減に分けられます。私も支払企業としては、やはり手形を発行するのに必要な印紙代の負担がなくなるという点が非常に大きいと考えています。当社の場合は年間約160



0万円の印紙税が課税されていた。手形発行には、手形発行機の購入費やメンテナンス費用、用紙代などランニングコストも必要です。仮に、手形をすべてでんさいに切り替えることができれば、こうした手形発行コストを削減することができるとのことです。(福下英毅・熊谷組経営管理本部 財務部財務グループ課長)

このほかにも、熊谷組では発行した手形は取引先に対して郵送することにしているが、その場合、郵送料や運送保険料が必要。電子取引であるでんさいは、こうした運送関連コストも不要となる。また、手形の発行・管理にかけていた人

件費コストの圧縮等にもつながると考えている。

でんさいネットは熊谷組と取引先双方のニーズに合致

もちろん、熊谷組がでんさい導入を決めた背景には、取引先のメリットも考えてのことであった。手形の場合、取引先は紛失や盗難のリスクがあり、期日管理や保管が面倒だという声をよく聞く。でんさいの場合、電子データのやり取りでペーパーレス化が図られるので、紛失や盗難のリスクはなく、保管・管理コストも削減することができる。

「私どもの場合、振出日から支払期日までの手形サイトは120日なのですが、結構多いケースとして取立ての手続きを失念してしまうことが挙げられます。でんさいの場合、支払期日になると自動的に取引金融機関の口座に入金されますので、面倒な取立手続きが不要になるばかりか、すっかり取立てを失念するということもなくなるわけです。これは、もちろんお取引先にとって大きなメリットで

しょうし、私どもにとっても盗難・紛失・取立て忘れなどに伴うイレギュラーな対応が不要になるわけですから大きいと思います」建設関連業者の場合、下請企業ともなると少ない人数で経営する零細企業も多いため、なかなか手形の保管や期日管理まで行き届かないケースもあるだろう。熊谷組では、そうした面からでもでんさいの導入メリットを考え、利用促進を図っているわけだ。

電子債権記録機関にはメガバンクが運営管理する機関もあるが、熊谷組が「でんさいネット」を選んだ理由は、新たな社会インフラとして誕生した全国銀行協会の100%出資会社であり、「全銀行参加型」のネットワークであるという点。すなわち、全銀協の正会員である大手銀行、地方銀行、第二地方銀行等に加え、信用金庫、信用組合など中小企業金融の担い手である全国の金融機関が参加しているということだ。

総合建設業を営む熊谷組の取引先は全国津々浦々。ローカルな取引先の場合、取引金融機関は地域

金融機関となることから、全国の地方銀行や信用金庫に対応したシステムのほうが利便性が高く、熊谷組と取引先の双方の利用ニーズにマッチしているのである。

でんさい登録の対象は手形払いの約2000社

熊谷組がでんさいの運用をスタートしたのは平成25年11月15日。それに先立つこと1年4カ月前の平成24年7月から、でんさい導入に向けた社内システムの開発が始められた。

簡潔に言うと、このシステムは熊谷組の基幹システムから、でんさいに必要な情報を全銀協のフォーマットに合わせて吐き出して、窓口金融機関である三井住友銀行のインターネットバンキングのシステムに吸い上げるといった形式。両者のシステム間の連携をどう取っていくかが、システム開発の肝となった」ということだ。

でんさいネットの開業は平成25年2月18日。開業後の4〜6月にかけては銀行システムとの連携について不具合がないかをチェック



福下英毅・熊谷組経営管理本部 財務部財務グループ課長